

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	47	学 校 名	静岡県立藤枝西高等学校	記 載 者	和田めぐみ
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

（「評価」：A 達成されている B だいたい達成されている C あまり達成されていない D 達成されていない）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	関係者御意見
ア	（人間性の育成） 行事、生徒会活動、部活動等を通して、 自己有用感を感じ、自己肯定感を高められる教育活動を実現する。	・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に取り組む生徒 80%以上 ・生徒を承認し、励ます声掛け（ボイスシャワー）を実践する教員 90% ・生徒に対する言葉遣い、授業のユニバーサルデザイン化に配慮している教員 90% ・学校生活で自分に自信を持てたことがあったと感じる生徒 80% ・国際的視野に立ち、物事を考えられるようになったと感じる生徒 70% ・読書活動が有意義であると感じる生徒 70%	A	A	・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に取り組めたとする生徒が多く、多感な時期の生徒への声掛けと動機付け、見取りや支援、励ましには大きなものがあったと拝察される。 ・校訓「敬愛」は、豊かな感性、異文化理解、品位ある生徒、人権尊重の礎である。自己有用感を高め、多くを学び人生の礎を確かなものにしてほしい。
イ	（学力の定着） 教師による授業改善及び生徒による学習改善の充実を図り、確かな学力を育成する。	・相互授業参観に積極的に取り組んだ教員 80% ・他教科等の授業参観を通して授業改善に努めた教員 80% ・主体的・対話的で深い学びを実践している教員 80% ・「授業の内容がよくわかる」と評価する生徒 80%以上。 ・授業を通して教科の興味、関心が高まったと評価する生徒 80%以上 ・授業において I C T機器を効果的に活用している教員 80%以上 ・ I C T機器を効果的に活用して学習をする生徒 80%以上	A	A	・授業参観では、自身の教科外の参観を通じ改善が続けていることが分かる。授業は生徒が自らの中で進化統合されるべきもので、学習の主体が生徒であることを忘れずに確かなものとしてほしい。 ・内部評価、内部比較にとどまらず、多角的に比較をするとい。他行との比較なども検討してはどうか。授業改善の方法には一考の余地があるのではないかな。
ウ	（進路目標の実現） キャリア教育の実践等を通して自己理解を深め、 生徒一人一人の進路実現を図る。	・「進路情報の提供が適切」と答える生徒 80%以上、保護者の割合 70%以上 ・進路指導に関して家庭と連携できていると答える生徒 80%以上、保護者 70%以上 ・自らの進路実現に向かってチャレンジできていると答える生徒 80%	B	A	・進路情報については、保護者まで届けることを考えるとタイミングや伝え方など方策に工夫が必要。 ・自己理解が自己実現への緒である。自活への歩みを確かなものにしてほしい。

様式第 5 号

エ	（信頼される学校） <安全> 学校安全 3 領域（生活・交通・災害）の意識を高め、心身の健康や安全に留意した学習環境の充実を図る。 <職員> 教職員の資質向上や危機管理の意識啓発及び働き方改革の推進を図る。 <広報> 学校の理解促進に向け、効果的な情報発信を図る。	・悩みや不安を話す人や機会があると答える生徒 80%以上 ・いじめ、体罰、重大な交通事故件数 0 件 ・交通事故前年度比 10%以上の削減 ・地震や暴風警報発令時等の登校基準を把握していると答える生徒・保護者 80%以上 ・施設、設備不具合に起因の事故、けが 0 件 ・「校舎内外の美化に積極的に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上 ・定時退勤や時間外業務の縮減を意識する教職員 80% ・学校の情報配信が適切であるとする保護者 80%	B	B	・生徒が人間関係の悩みに直面した時に、直接相談できる体制が整っていて安心感がある。一つの方法だけでなく、複数あるとよい。 ・いじめ、体罰、重大な交通事故などは未然防止や早期発見の対応が大切である。 ・定時退勤や時間外業務の縮減を意識する教職員については、難しさがある。枠組みに無理がないか、定時退勤が可能となる方策を一つずつ整えてほしい。 ・情報配信が適切になされている。日ごろの地道な活動がその裏付けにあるからこそその評価と考えられる。
オ	（地域との連携） コミュニティ・スクール事業など、地域資源を活用した生徒の成長の機会の充実により、地域に信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティ・スクール事業や探究活動が自分のためになった、と感じる生徒の割合 70% ・学校運営協議会の協議内容を学校運営に活かす。 ・地域と連携した教育活動をしていると感じられる保護者の割合 70%	B	B	・義務教育に比べて、地域の捉え方そのものに難しい側面がある。歴史を重ねる地域であるからこそ、人のつながり、地域のつながりを主柱に「地域に信頼される学校づくり」を精励されていると感じる。 ・生徒の将来につながる「種」がまかれている。来年度からは仕組みを整え、生徒が主役の活動が展開されることを期待している。